

「星稜カフェ」能登の創造的復興に向けた被災から相互に学び合う機会の創設

団体名●星稜大の大学生および留学生／代表者名●中原聖乃（人文学部国際文化学科・准教授）

はじめに(背景・目的・目標)

本学は能登半島に近く、留学生や地域活動に積極的な学生が多いという特徴がある。今後災害の多発が予測される中、能登半島被災地の復興に留学生が関わることは意義深く、日本での学びは大きな価値を持つと同時に、本学の留学経験のある学生にとっても、英語力を生かす貴重な機会となると考えた。

活動内容

2025年7月12日(土)

星稜大学の学生によるボランティア活動「星稜カフェ」を、珠洲市若山公民館にて開催した。人文学部・中原ゼミ、経済学部・張ゼミ、そして外国人留学生を含む計13名の学生が参加し、茶菓子を囲みながら、震災前後の暮らしの変化や日常生活における悩み・課題について住民の方からお話を伺った。

2025年9月18日(木)・19日(金)

中原ゼミの学生3名が、地震と洪水で被災したケロンの小さな村(石川県鳳珠郡能登町)にて、ボランティア活動を行った。森の枝葉や木の幹を用いて道の亀裂を修復する「森の再生」作業や、パン作りの支援活動に取り組んだ。

2025年11月16日(日)

「星稜カフェ」第2弾を、再び珠洲市若山公民館にて開催した。人文学部・中原ゼミ、経済学部・張ゼミ、外国人留学生を含む計9名の学生が参加し、仮設住宅の清掃活動や、公民館でのカフェ運営を通じて地域住民との交流を深めた。

成果、結果の考察

教員が計画を立案し、学生が参加する従来のボランティア活動から一歩進め、学生の主体的な取り組みを促すことを目指した。しかし、実際には運用面での課題が残った。たとえば、カフェの物品購入に教員の立ち会いが必要であったことや、学生の参加日程の調整に時間を要した点である。また、参加者の多くが初対面であったため、現場での即興的な協力や主体的な行動を引き出すことには難しさがあった。

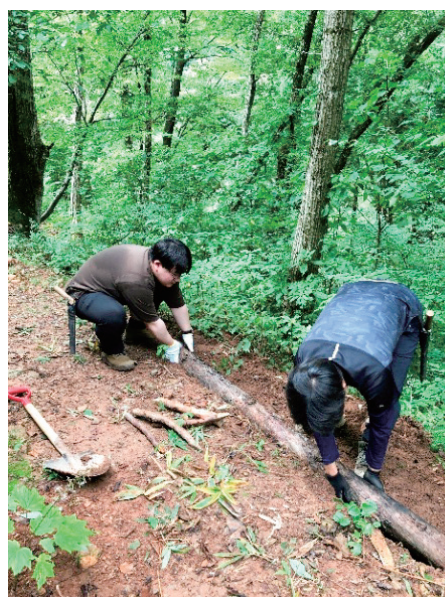
今後の課題、展望

今年度の課題を踏まえ、中原と張が温めているボランティアの企画を来年度も実施する。参加学生が、発展的にボランティアを行ったり、卒業論文と関連付けての活動をしたりすることで、一過性で終わらない継続的な活動の仕組みを整えたいと考えている。

来年度は学生がより企画段階から関与できる体制を検討する。



若山公民館での星稜カフェ活動



ケロンの小さな村での森の修復